

3. 海洋咬刺傷に対する高気圧酸素治療の適応と有用性

小浜正博*¹⁾ 永井りつ子*²⁾ 新里善一*¹⁾
末永涼子*¹⁾ 大仲良一*³⁾

〔*¹⁾ 沖縄セントラル病院外科・高気圧治療部
*³⁾ 同 脳外科
*²⁾ 松原クリニック〕

亜熱帯海域に棲息する海洋生物による刺傷、咬傷では生物のもつ毒により皮膚、軟部組織、血管、及び神経に特異的な病変がみられる。このために通常の外傷処置では治癒が遷延し、受傷部の瘢痕化をみることがある。創処置には毒の局所、全身への作用を理解することが必要とされる。当院外科では1998年6月～2000年5月の2年間に105例の海洋生物による創傷（以下海洋咬刺傷）を経験した。この内ハブクラゲ、ウンバチイソギンチャク等の腔腸動物による刺傷26例、オニヒトデ、ガンガゼ等の棘皮動物による刺傷3例、オニダルマオコゼ、エイ、ゴンズイ等の脊椎動物による刺傷12例、軟体動物のタコによる咬傷1例の計42例の海洋咬刺傷に対して高気圧酸素治療（以下HBO）を行った。HBOの適応としては1.強度の炎症、浮腫、及び腫脹のみられた症例、2.水疱及び潰瘍形成に至った症例、3.末梢循環不全で組織壊死に陥る可能性のある症例、4.二次感染を起し治癒が遷延する症例とした。治療条件は2.8ATA、60分、減圧30分で行い、創部が自然治癒を期待できる状態まで継続した。治療回数は1～35回、平均6回であった。併用薬物はステロイド剤と抗ヒスタミン剤を用い、皮膚病変や全身状態を考慮して初回HBO中に静脈投与を行い、その後経口投与とした。末梢循環不全例ではHBO中に血管拡張剤を使用した。1例は継続治療ができなかったが、残りの41例では全例に良好な創部治癒が得られた。これらの治療経験から海洋咬刺傷の治癒促進に、補助的治療法としてHBOは非常に有効であると考えられた。

4. 突発性難聴の高度難聴、scale out症例に対する高気圧酸素療法の効果

湯佐祥子 須加原一博
(琉球大学医学部麻醉科学講座)

平成元年迄に経験した突発性難聴に対する高気圧酸素療法（HBO）の効果については、既に報告したが、発症より早期の軽症例では自然治癒症例も含まれ、HBO自体の効果を過剰評価する可能性が指摘されている。今回は高度難聴、scale out症例に対するHBOの効果を、治療方針が同一と考えられる平成元年より平成10年3月までの症例につき検討したので報告する。

【症例】平成元年より平成10年3月までに突発性難聴と診断されHBOを1週間以上施行した症例286症例中、scale out症例34例、audiometry 250-4000Hzの聴力レベルの何れかで聴力が測定可能で平均聴力が90db以上の高度難聴症例37例を対象とした。平均年齢、発症より治療開始迄の期間、及び治療回数はscale out症例で各々42.0才、11.2日、21.1回、高度難聴症例で各々44.6才、8.6日、21.6回であった。

【治療方針】HBOは2.0～2.4ATA、1時間、5回/週、20回とし、HBO中ステロイド（10日間中に漸減）、ATP、総合ビタミン剤を含む低分子デキストランの静注を行い、患側の星状神経節ブロックまたはプロスタグランジンの静注を併用した。改善傾向を認めた症例ではHBOを10回まで延長することを原則とした。

【治療効果】日常生活に関係する平均聴力で10～20db（全治）、20～50db（著明回復）、50～80db（回復）、80db以上（不変）とすると、scale out症例では各々1例、1例、10例（29.4%）、22例（64.7%）で、高度難聴症例では各々5例（13.5%）、4例（10.8%）、18例（48.6%）、10例（27.0%）であった。Scale out症例では65%が効果が無いのに対し、高度難聴では70%以上で効果があった。